

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床工学技士専攻科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	臨床医学総論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年次		学期及び曜時限	通年	教室名	
担 当 教 員	山村 光弘	実務経験と その関連資格				
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>内容:外科学総論(夏期第1回から第15回)および外科学各論(冬期第16回から第30回)            目標:将来臨床工学技士の仕事をするのに必要な外科知識、とくに心臓血管外科領域の知識を修得する。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>1. 定期試験: 70% (注意事項別途指示)            2. 小テスト・レポート: 0%            3. 授業態度・出席: 30% (出席不良時は試験受験できなくなるので注意下さい)</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>標準外科学, 心臓病へのアプローチ, 術後ケアとドレーン管理のすべて</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>各自ノートを用意し必要事項は自分の手でメモする。次回授業までに復習することが大切である。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>学問に王道なし! 諸君が将来飯の糧とする、外科学とくに心臓血管外科学を、丸暗記ではなく「なぜそうなるのか?(病態)」を中心に解説講義するので、しっかり授業についてきて欲しい。なお専攻科講義は昨年度より開講してます。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	外科の歴史について学び理解する		PowerPointによる講義とDVDビデオ提示で授業進行する。	なし	
	各コマにおける授業予定	外科の歴史 1				
第2回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	外科の歴史について学び理解する		同上	前回授業内容復習	
	各コマにおける授業予定	外科の歴史 2				
第3回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	心臓血管外科の歴史について学び理解する		同上	前回授業内容復習	
	各コマにおける授業予定	心臓血管外科の歴史 1				
第4回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	心臓血管外科の歴史について学び理解する		同上	前回授業内容復習	
	各コマにおける授業予定	心臓血管外科の歴史 2				
第5回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	移植学について学び理解する		同上	なし	
	各コマにおける授業予定	移植学 1				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	移植学について学び理解する	PowerPointによる講義とDVDビデオ提示で授業進行する。	前回授業内容復習
	各コマにおける授業予定	移植学 2		
第7回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	人工臓器について学び理解する	同上	
	各コマにおける授業予定	人工臓器 1		
第8回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	人工臓器について学ぶ	同上	前回授業内容復習
	各コマにおける授業予定	人工臓器 2		
第9回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	心肺蘇生について学び理解する	同上	なし
	各コマにおける授業予定	心肺蘇生		
第10回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	外科基本手技について学び理解する	同上	なし
	各コマにおける授業予定	外科基本手技講義		
第11回	演習実習形式 授業を通じての到達目標	外科基本手技実習ができる	同上	前回授業内容復習
	各コマにおける授業予定	外科基本手技実習		
第12回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	ショックについて学び理解する	同上	なし
	各コマにおける授業予定	ショック		
第13回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	周術期管理について学び理解する	同上	なし
	各コマにおける授業予定	周術期管理		
第14回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	感染および腫瘍について学び理解する	同上	なし
	各コマにおける授業予定	感染および腫瘍		
第15回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	これまでの講義内容について、要点を理解した上で問題を解くことができるようになる。	試験用紙	授業内容復習
	各コマにおける授業予定	これまでの講義で国家試験問題からの演習を行い、講義内容の理解度を確認する。		

## 2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床工学技士専攻科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	臨床医学総論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年次		学期及び曜時限	通年	教室名	
担 当 教 員	山村 光弘	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
内容:外科学総論(夏期第1回から第15回)および外科学各論(冬期第16回から第30回) 目標:将来臨床工学技士の仕事をするのに必要な外科知識、とくに心臓血管外科領域の知識を修得する。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験: 70% (注意事項別途指示) 2. 小テスト・レポート: 0% 3. 授業態度・出席: 30% (出席不良時は試験受験できなくなるので注意下さい)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
標準外科学, 心臓病へのアプローチ, 術後ケアとドレーン管理のすべて						
《授業外における学習方法》						
各自ノートを用意し必要事項は自分の手でメモする。次回授業までに復習することが大切である。						
《履修に当たっての留意点》						
学問に王道なし! 諸君が将来飯の糧とする、外科学とくに心臓血管外科学を、丸暗記ではなく「なぜそうなるのか?(病態)」を中心に解説講義するので、しっかり授業についてきて欲しい。なお専攻科講義は昨年度より開講してます。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	小児心臓外科について学び理解する		PowerPointによる講義と手術DVDビデオ提示で授業進行する。	夏期講義内容復習	
	各コマにおける授業予定	小児心臓外科 1				
第17回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	小児心臓外科について学び理解する		同上	前回授業内容復習	
	各コマにおける授業予定	小児心臓外科 2				
第18回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	冠動脈外科について学び理解する		同上	なし	
	各コマにおける授業予定	冠動脈外科 1				
第19回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	冠動脈外科について学び理解する		同上	前回授業内容復習	
	各コマにおける授業予定	冠動脈外科 2				
第20回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	弁膜症外科について学び理解する		同上	なし	
	各コマにおける授業予定	弁膜症外科 1				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	弁膜症外科について学び理解する	PowerPointによる講義と手術DVDビデオ提示で授業進行する。	前回授業内容復習
		各コマにおける授業予定	弁膜症外科 2		
第22回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	大血管外科について学び理解する	同上	なし
		各コマにおける授業予定	大血管外科 1		
第23回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	大血管外科について学び理解する	同上	前回授業内容復習
		各コマにおける授業予定	大血管外科 2		
第24回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	末梢血管外科について学び理解する	同上	なし
		各コマにおける授業予定	末梢血管外科 1		
第25回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	末梢血管外科について学び理解する	同上	前回授業内容復習
		各コマにおける授業予定	末梢血管外科 2		
第26回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸器外科について学び理解する	同上	なし
		各コマにおける授業予定	呼吸器外科 1		
第27回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸器外科について学び理解する	同上	前回授業内容復習
		各コマにおける授業予定	呼吸器外科 2		
第28回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	消化器外科について学び理解する	PowerPointによる講義で授業進行する。	なし
		各コマにおける授業予定	消化器外科 1		
第29回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	消化器外科について学び理解する	同上	前回授業内容復習
		各コマにおける授業予定	消化器外科 2		
第30回	演習形式	授業を通じての到達目標	これまでの講義内容について、要点を理解した上で問題を解くことができるようになる。		授業内容復習
		各コマにおける授業予定	これまでの講義で国家試験問題からの演習を行い、講義内容の理解度を確認する。		